

活動成果報告書

令和3年度（第25回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

Withコロナ時代の新しい生活様式を踏まえた健康普及員活動を支援する保健師活動

グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名)

大和市役所 健康福祉部 健康づくり推進課

代表者：小渡 葉子

勤務先：大和市役所

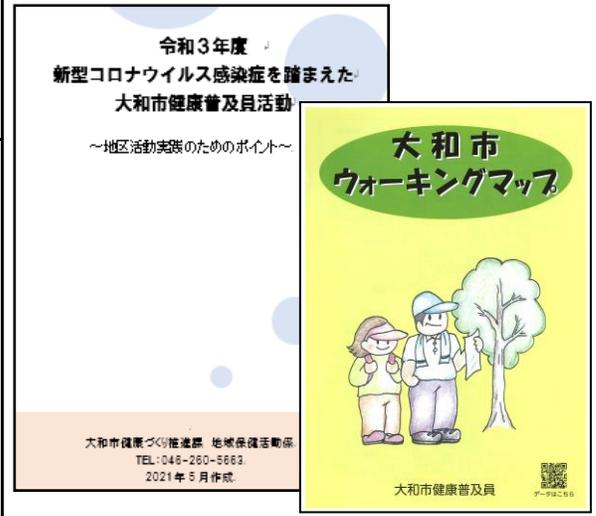
所 属：健康福祉部 健康づくり推進課 地域保健活動係

所在地：〒242-8601

神奈川県大和市鶴間1-31-7

TEL：046-260-5663

FAX：046-260-1156



◇活動方針

本市では、「健康都市やまと」を将来像とする「健康都市やまと総合計画」を策定し、健康を「人」の健康・「まち」の健康・「社会」の健康の3つの領域に分け、その実現を目指した施策を行っている。そのなかの「人」の健康を促進する施策の一つに、昭和58年度より自治会推薦による健康づくりのリーダー「健康普及員」を位置付けている。健康普及員は、保健師の支援を受けながら、自治会や地区組織団体と連携し、地域の特徴に合わせた健康づくり活動を市内全域で実践してきた。今回は、新型コロナウイルス感染症が流行し、活動が制限される中で健康普及員によるコロナ禍での健康づくり活動と、活動継続のために保健師が行った支援を報告する。

◇活動内容とその成果

「活動内容」

(1) 市は大和市健康普及員連絡協議会に活動を委託し、保健師がその活動支援を行っている。

(定員72名，任期2年，日常生活圏域11地区で活動)

(2) 活動内容

○健康普及員活動：市内11地区に於いてウォーキング・体操・食生活等の教室を開催。また、地域のイベント等に参加し健康に関する普及啓発活動を実施。

○保健師による支援：地区の特徴に合わせ効果的な活動ができるよう、事業担当保健師による健康普及員の育成や広報誌作成の支援と並行して、地区担当保健師による教室の企画・運営支援等、きめ細やかに地区活動支援を実施している。育成については年4回の講座を開催し、健康普及員が実践で役立つ内容を伝えるとともに、保健師が11地区ごとに特定健診結果を分析し、地区の健康課題を健康普及員へ提示するなど、健康普及員が地域の健康を考える機会を提供している。

(3) 活動実績

コロナ禍前は順調に活動回数や講座の参加人数が増えてきていたが、R1・R2年度はコロナ禍での緊急事態宣言発令等により活動停止期間があったことや、大人数が集まるイベントの中止、3密回避のため1

活動成果報告書

○コロナ禍における健康普及員の活動内容の工夫と活動成果

活動内容	コロナ禍以降の活動内容の工夫点等	活動成果
健康講座の企画・運営 ウォーキング map の作成 ウォーキング教室の企画・運営	活動マニュアルに沿って実施、活動継続 (緊急事態宣言期間中を除く)	マニュアルに沿って 3 密を回避し感染予防策を徹底して実施できた
市規模等のイベントでの普及啓発活動	不特定多数が集まるため、すべて開催中止	
広報誌の作成・配布	継続 (年 1 回・市全域で回覧) 自宅で取り組める運動を周知	自宅で取り組む人が出てきた
地区活動	講座が開催できない時期は、地区で創意工夫を凝らし健康情報のちらし等を作成・配布による普及啓発活動を実施 (例) ウォーキング map の周知と活用法 菓子カロリーと運動消費カロリーの対比例	多くの市民がウォーキング map に関心を持ち、map を配布した。 「間食過多を見直し、お菓子のエネルギー量を気にするようになった」という声があった
	調理実習を伴う料理教室から、食生活講座へと内容を変化させて実施。 (例) 発酵食品セミナーを開催。その後、講座で得た健康情報を元にチラシを作成。地域住民に広く配布し普及啓発活動を実施	新たな視点での教室開催ができ、食の学びを深められたと大好評だった
PR 活動	効果的な普及方法を考え、健康普及員自ら、地区組織団体への活動周知を行った	他団体に健康普及員活動を知ってもらうことにつながった
	健康普及員のさらなる知名度アップのため ・ラジオ番組に出演 ・テレビ放送 (新規)	新しい広報媒体を活用した結果、若い世代の参加者が増加

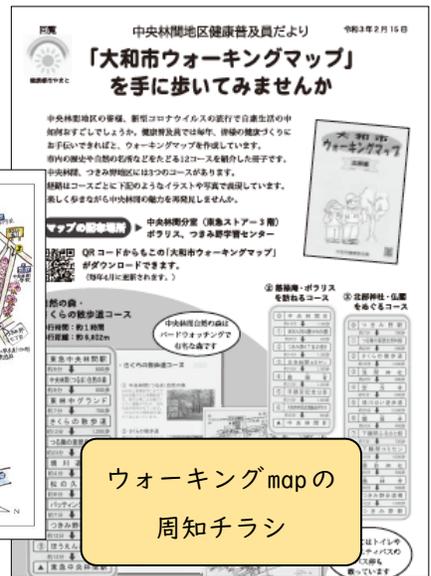
教室の様子



参加者の検温と
体調チェック



ウォーキング map



ウォーキング map の
周知チラシ

◇今後の計画

コロナ禍では外出自粛の影響を受けて社会的に高齢の方のフレイルが問題視されている。健康普及員は地域の身近な場所で活動しており、住民が気軽に参加できる「外に出る・知識を得る・体を動かす・人と交流する」場を提供するとともに、フレイルをはじめ介護予防・生活習慣病予防に寄与する活動であると言える。これらを重要な健康づくり活動と位置づけ、その担い手である健康普及員の活動が住民主体の活動となり、個々の力量形成が地域全体の健康づくりの活動につながることを目指し、今後も支援を継続していく。

○特に PR したいこと

新型コロナウイルス感染症の流行により、健康普及員が不安を感じて活動の継続が危ぶまれたが、保健師が不安な気持ちを受け止め、課題解決に向けて常に寄り添って丁寧に地区活動を支援してきた結果、健康普及員が自ら新しい活動を考え実践する機会となり、これまで以上に主体性が高まったと感じた。このことから、地区組織の活動支援は、地区の健康づくりに重要であることを再確認できた。